学校教育

施設内訪問学級を新設
～心身障害児教育を充実～

今年度は、文部省の五十四年度養護教育義務制に向けて、心身障害児教育の充実を図るため。二千万円を計上し、施設内訪問学級六、精神薄弱学級二、情緒障害学級二の計十学級を新設しました。

具体的な設置校は、次のとおりです。

関屋小学校明生園訪問学級(四)と関屋中学校明生園訪問学級(一)で明生園内の学齢児を対象に、浜浦小学校山鳩園訪問学級(一)は、山鳩園の施設を借りて、学齢に達した重複障害児を対象に、あわせて五十六人の子どもたちが学校教育をうけました。

このほか精薄学級を小針小学校と山の下小学校に各一学級、情緒障害学級を有明台小学校、万代小学校に各一学級新設しました。

今まで関分以西には赤塚小学校だけでしたが、小針小学校と有明台小学校へ新設し、特殊学級の適正配置を図りました。

さらに、手厚く、キメ細かな指導を行うため、浜浦小学校、有明台小学校、万代小学校に保母も配置しました。

更に適正配置を

新年度も、特殊学級を鳥屋野地区など周辺部の未設置地域へも新設し、さらに特殊学級の適正配置につとめます。

新年度の新・増設は六学級です。

精薄学級 上所小学校一学級新設、松浜小学校一学級増設、関屋中学校一学級新設。

そのほか、情緒障害学級を山の下中学校に一学級新設（中学校では、県内で初めて）し、保母も一人配置します。

そのほか、病虚弱在宅訪問学級を関屋中学校に一学級新設し、明生園訪問学級を一学級増設します。

専門校医を配置

また、公害などで疾病の多い入舟小、山の下小、東山の下小、桃山小、太郎代小に耳鼻科の、入舟小、山の下小、桃山小、太郎代小、藤見小に眼科の専門校医を配置し、児童の健康管理をはば広く行っていきます。

訪問学級の行われている明生園

上山小・五十嵐中 あす四月一日から開校

「良好な教育環境のもとで学校教育が受けられる」ことを基本目標に学校建設にあたりました。

今年度の大きな特徴は、過密解消の抜本的な解決はこれしかないと分離新設事業費が増改築事業費を上回ったことです。

今年度新設は上山小学校と五十嵐中学校の二校で四月開校します。

上山小学校の分離校は上所小学校、鳥屋野小学校、女池小学校で鉄筋四階建て。

五十嵐中学校も同じく鉄筋四階建てで、分離校は坂井輪中学校。

昨年四月には、東中野山小学校と西幼稚園も開校（園）しています。

そのほか、マンモス校と危険校舎解消のため増改築を行いました。

〈増改築〉

下山小学校 増築で、図書室、視聴覚室

山潟小学校 増築で、普通教室二十、資料室（五十二年度までの継続）

牡丹山小学校 増築で、屋内体育館

栄小学校 改築で、便所

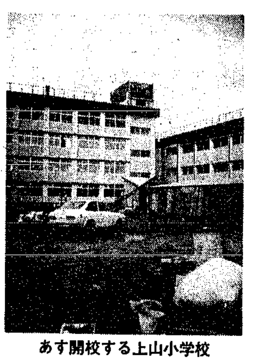
曽野木小学校 増築で、給食室

石山中学校 増築で、普通教室四、管理室

藤見中学校 増築で、普通教室九、管理室

東新潟中学校 改築で、普通教室二十八、美術、視聴覚、図工、管理、資料室、便所（五十二年度までの継続）

そのほか航空騒音防止対策として松浜小学校と松浜中学校の改築を行いました。



あす開校する上山小学校

学校プールの建設は東中野山小学校と太郎代小学校。

用地買収は第三木戸小学校、五十嵐中学校、宮浦中学校（拡張分）の三校分を行いました。

新潟市の児童、生徒数は十年前にくらべて約六千六百人も増えています。そして、その九割以上が関屋分水の西から内野までの間にかたまっているため、毎年のようにこの地区に学校を作ってきました。

四十五年四月から昨年四月までに、小学校四校、中学校一校が開校しており、今年度は五十嵐中学校。

学校規模の適正化を図るため来年度もこの地区を含め三校の分離新設を行います。

新年度新設は三小・中学校

〈新設〉

第三木戸小学校（分離校は木戸小学校と牡丹山小学校）竹尾字浦沢に鉄筋四階建て。

第三新通小学校（分離校は新通小学校）須賀字村中に鉄筋四階建て。

第二鳥屋野中学校（分離校は鳥屋野中学校）女池字上山に鉄筋四階建て。

それぞれ、開校は、来年四月の予定です。

増改築も長嶺小、石山中、真砂小、女池小、大渕小、中野小屋中、酒屋小、有明台小、豊照小、宮浦中、内野中の十一の小・中学校で行います。

航空騒音防止のため改築が進められている松浜小学校と松浜中学校の建設も、継続して進めていきます。

市立小・中・高等学校の父母負担を軽減するため、教材費を増額します。

プールは、この四月に開校する上山小学校と五十嵐中学校に建設します。

用地買収は、第三新通小学校、第二鳥屋野中学校、西幼稚園です。

文化・地域活動にも学校開放を利用

文化スポーツ

社会体育、文化活動にと施設設備の拡充を中心に体育・文化の振興を図りました。

その一つが学校開放の充実です。

今までスポーツだけに開放していた学校を広く文化、地域活動にもと活用範囲を拡大し、開放校四十校で再スタート。現在は四十四校を開校し、利用者は延べ二十五万人に達しようとしています。

窓口の一本化と個人開放の手軽さが受けて非常に好評でした新年度はさらに学校開放の充実を図り、全校開放、施設の充実を図っていきます。

また、早起き野球、早起きテニス、新設の婦人スポーツ大会、各種スポーツ教室に十万人が参加、スポーツの輪が広がっています。

このようなスポーツの大衆化にともなって、家族で楽しめる施設をと、東新潟地区に核となるような総合体育館を建設するため、具体的な調査を実施します。場所は神導寺の第二笹口小建設用地。

さしあたって、ボーリング調査を実施し、どんな建物が可能か市民代表、スポーツ関係者などでプロジェクトチームを組み、運営を含めたプランを検討していきます。

音楽文化会館 十月完成

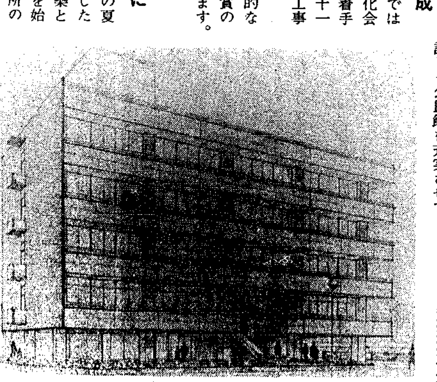
社会教育の施設の面ではなんといっても音楽文化会館。昨年十月に建設に着手し、今年十月末完成、十一月オープンをめざして工事が進んでいます。

市民の自主的、自発的な活動の練習、発表、鑑賞の場として利用していきます。

中地区公民館は夏に

中地区公民館は今年の夏に完成。これは老朽化した中地区事務所の移転新築と併せて昨年十月に工事を始めたもので山の下閲覧所の充実も行っていきます。

さらに、新年度と五十三年度の二か年継続で老朽化した坂井輪地区公民館を建設し、公民館を充実させていきます。



11月オープンの音楽文化会館完成図

二年目を迎える自主活動推進事業

市民の自主的、自発的な活動の推進にも力を入れてきました。

まず、自主活動推進事業。二か年かけて二地区を指定し、市民の自主的な活動を支援しようというものです。今年度、木戸分館区と入舟小学校区を指定、地区での自主活動は新年度二か年目を迎えます。

図書館 協力員制度継続

市民に対する読書サービスを拡充するために、四月から七人でスタートした図書館協力員。昨年四月から新設した石山地区を含め、内野、坂井輪、関屋、鳥屋野、松浜の六か所の移動図書館で読書相談にあたっています。

新年度は図書購入費をこれまでの市民一人当たり十九円から四十円に大幅に増やし、県平均並みにし、図書館司書を三人増員、中央図書館の建設についても調査検討を進めていきます。

地区音楽教室 二百人が参加

音楽愛好人口の拡大と周辺住宅地区の愛好者の希望にこたえようと開いた地区音楽教室、新崎、鍋形新田山潟、山ノ下、内野、太夫浜の六か所でコーラス、民謡、郷土芸能など地域の要望にそった内容で開催、二百人近い人が参加しています。新年度はあらたに八地区位で行っていく予定です。

市史読本編集 二年目に

新潟市の原始古代から現代にいたるまでの発展の姿をわかりやすい読本としてまとめる仕事はいよいよ二年目に入ります。発行は五十三年度発行予定。

公民館文化祭 六十三団体が参加

市民が気軽に発表できる場として市民グループが自主的にスタートさせた文化祭も三回目を迎え、参加数は、六十三団体約六百五十点と増えています。

新年度は零歳児から青年までの一かんした社会教育講座として「青年教室」「少年教室」「青年仲間作り推進事業」「ゼロ歳児通信教育事業」を新設します。